施策マネジメントシート
（令和７年度目標達成度評価）

シート１　施策22：公共交通の充実

施策体系

基本方針	5	都市基盤の健幸	施策名	22	公共交通の充実

施策統括部	市長公室	関係課	無し
施策主管課	企画課		

１　施策の評価指標

	成果指標	単位
A	レターバス利用者数	人
B	乗合タクシー利用者数	人
C		
D		

２　指標等の推移

成果指標		R4年度実績値	数値区分	６年度	７年度	８年度	９年度	評価	背景として考えられること
A	人	74,405	目標値	80,160	83,040	85,920	88,800	○	令和7年10月に路線再編及びダイヤの改正、サブルートの設定により商業施設へのアクセスやJRへの接続等の改善と利便性向上が図られ、市民の利用ニーズが高まり利用者数の増加に寄与していると考えます。
			実績値	84,447	86,216				
B	人	3,351	目標値	3,610	3,740	3,870	4,000	○	令和7年10月に路線再編及びデマンド運行の導入により、交通結節点までの接続改善や交通空白地域の解消に取り組みました。西部エリアでは再編後に大幅な利用者増となり、再編により効率化が進み、目標値を達成しました。
			実績値	3,928	3,799				
C			目標値						
			実績値						
D			目標値						
			実績値						

※【評価】　○；目標達成　△；目標をほぼ達成（－5%）　×；目標を未達成

事務事業数・コスト				６年度	７年度	８年度	９年度
事務事業数			本数	1	1		
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0		
		都道府県支出金	千円	9,574	10,331		
		地方債	千円	0	0		
		繰入金	千円	0	0		
		その他	千円	8,035	68,529		
		一般財源	千円	108,591	106,722		
	事業費計		千円	126,200	185,582		

３　施策の現状・住民意見等

①施策の現状（第１期基本計画策定当初）と今後の状況変化

●令和6年4月にレターバス全便において、土日ダイヤを新規で設定しました。
●令和7年10月に路線再編及びダイヤの改正、乗り合いタクシーのデマンド運行の導入を行いました。

②この施策に対して住民（対象者、納税者、関係者）、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？

（令和７年度（令和6年度振り返り）の施策評価における議会意見）
●電車・路線バスとの乗り継ぎを円滑にすること。
●コミュニティー交通の路線再編を機に、利用者目線に立った視点（目的地までの乗換回数が少ないなど）を持ち、利便性の高い公共交通の実現を図ること。
●レターバスや乗り合いタクシーの利便性の向上と利用促進を図ること。

（令和７年度（令和6年度振り返り）の施策評価における総合政策審議会意見）
●近隣市町、企業等と連携した公共交通の強化に努めること。
●外国人も利用しやすい環境を整備すること。
●利用者の意見を多く取り入れ、よりよい交通ルートの検討を行うこと。

４　施策の評価

①施策の振り返り（経営方針の達成度等）

令和７年度経営方針からの振り返りは以下のとおりです。
①【コミュニティ交通の効果的な活用、利便性の向上を図るため、合志市地域公共交通計画に基づき、再編等の各種施策に取り組みます。また、引き続き持続可能なコミュニティ交通のあり方について、地域公共交通協議会において検討します。】については、レターバスと乗合タクシーの役割分担の明確化・所要時間の短縮・拠点間の移動の円滑化、運行効率化を目的として、令和7年10月に運行ルートの再編と乗り合いタクシーのオンデマンド運行導入を行いました。また、夜間時間帯の公共交通空白が生じている課題に対して、令和7年12月～令和8年1月にかけて夜間のレターバスの実証運行を行い、帰宅時間帯における利用ニーズの把握を行いました。地域公共交通協議会において路線、ダイヤ、利用者負担、ルート再編など、利便性の向上や効率化について協議を重ねました。

②【コミュニティ交通の利用率向上のため、路線の利用案内などによる利用促進や広報紙による利用啓発周知などの取り組みを行います。】については、令和7年10月の再編に伴い、ガイドマップを全戸配布したことに加え、各地での説明会を開催し再編の混乱が最小限になるよう努めました。また、マイ時刻表によるルート、ダイヤ、乗り換えの案内周知や、地域団体の活動の場に訪問し地域の目的に応じた利用案内を行うなど周知啓発に取り組み、利用率の向上を図りました。

②施策の課題

●「熊本都市圏都市交通マスタープラン」の主要施策に位置付けられている御代志駅と北東部地域を結ぶアクセス強化策（ＢＲＴ）について、県と連携し、御代志駅周辺の交通機能や通勤実態の詳細な調査や、ＢＲＴを含む多様な輸送モードの連携方策、結節点としての機能強化策等の検討が必要です。

●路線再編後の利用実態に応じたサービス最適化の継続的な必要性と、予約型運行などの新たな運行形態における利便性、効率性の確保について引き続き検討が必要です。

●上熊本駅における交通結節機能強化に向け、上熊本駅及び熊本電鉄全体の機能強化方針を取りまとめるとともに、施策の実施に向けた関係者との調整が必要です。

５　施策の令和７年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項（令和８年7月13日まとめ）

●路線再編後の利用状況をエリアごとに詳細に検証し、高齢者・学生・外国人など移動手段が限られる層のニーズ調査やデータ分析を徹底したうえで、乗合タクシー・デマンド型交通の活用拡大や特定施設への直行ルート・柔軟なダイヤ設定を行い、市民の日常生活を支える実効性の高い公共交通サービスを構築すること。
●JR・熊本電鉄との乗り継ぎ円滑化を最優先課題として取り組むとともに、近隣市町村・企業と連携しBRT導入検討を含めた広域的な公共交通網の整備を推進し、セミコンテクノパーク周辺等の渋滞対策として企業と共同でシャトルバスやデマンド交通の導入・拡充を図ること。
●利用者目線に立った分かりやすい広報やモビリティ・マネジメントを推進するとともに、レターバスの割引制度やポイント付与などの利用特典を整備し、マイカー依存からの意識・行動変容を促すことで、利用率の向上と持続可能なコミュニティ交通の確保を図ること。

②総合政策審議会での指摘事項（令和8年8月31日のまとめ）

●市民ニーズを反映した路線網の最適化と利便性を向上させること。
●ターゲットに合わせた効果的な広報と情報発信を強化すること。
●付加価値の提供により公共交通の利用意欲を醸成すること。

③議会の行政評価における指摘事項（令和8年9月1日）

●利用者のニーズを継続的に把握し、実情に即した公共交通網の整備に努めること。
●市公共交通計画に基づき、各交通手段の連携を図り交通結節機能の強化と利便性向上の推進に努めること。
●利用状況や費用対効果を検証しながら効率的で持続可能な公共交通体系の構築に努めること。

６　次年度に向けた取り組み方針

〇政策推進本部　令和９年度合志市経営方針（令和8年10月15日）

①御代志駅と北東部地域を結ぶアクセス強化策について、 BRTをはじめとする多様な公共交通モードを視野に入れ、市民生活や企業活動を支える利便性の高い交通体系を検討します。加えて、地域の活性化・振興を含めた推進体制により、利便性の高い交通ネットワークの構築を図ります。
②利用実態に合わせた詳細分析を行い、AIデマンド運行の導入を見据え、利便性と効率性の高いコミュニティ交通を目指します。
③福祉や商業・健康などの他分野との連携により、多世代が公共交通を積極的に選択するような、利用促進に繋がる新たなインセンティブや仕組みを検討します。